

令和元年度

事業所名： グループホーム 城山の杜 1丁目

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392900031		
法人名	株式会社 信樹会		
事業所名	グループホーム 城山の杜 1丁目		
所在地	〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-5-1		
自己評価作成日	令和元年10月2日	評価結果市町村受理日	令和元年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様各々の性格や趣味・嗜好品を把握し個性を活かしてアットホームで家庭的な生活が送れるようスタッフ一同支援しています。健康の為毎日ラジオ体操は欠かさず、余暇時には皆で歌を唄い・オセロや将棋・計算問題を行い頭の運動も行っており、怒ったり笑ったり感情豊かで自由に生活を送っています。また、看取り看護支援を行っており、ご家族様・医療機関とも連携が取れる環境も整っていますので不安なく生活出来る様支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&amp;JiyosyoCd=0392900031-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&amp;JiyosyoCd=0392900031-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、三陸縦貫自動車道の大槌インターチェンジに近く、復興事業が進んだ近隣には、医療機関、学校、警察署、郵便局、コンビニがあり利便性が高い場所に立地している。今年度は、運営推進会議委員からの提案があった「誤薬の防止」について取り組み、成果をあげている。利用者の健康状態、認知と行動の状況等の評価項目について、居室担当職員が毎月評価項目に沿い客観的な評価を行い、その積み上げの下で、3ヵ月毎のモニタリングを実施、6ヵ月毎に管理者が原案を作成し、ケアマネである施設長と協議し介護計画を見直すなど、利用者主体の介護について積極的かつ具体的に取り組みが図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホーム 城山の杜 1丁目

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護記録ファイルに添付し記録記入時に自分の行った介護と照らし合わせを行い理念を共有し実践につなげている。スタッフルームに掲示し。入社時に説明している。	開設時に定めた、理念・運営目標は、両ユニット共通のものとして、現在も掲げられている。職員は、利用者の意向を尊重した支援であったかについて、介護記録に記載しながら一日を振り返るなど、理念、運営方針は、日々の介護の在り方を職員に意識付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方に消防訓練に参加してもらっている。中学生が職場体験に来ている。	自動車道路の建設に伴い、移転等でご近所が一世帯だけになったが、近傍の小中学校の児童・生徒が毎年の恒例行事として、小学生は利用者と一緒にゲームに興じ、中学生は職場体験を行っている。また、地域の傾聴ボランティアが毎月訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や近所の方に消防訓練に参加してもらい認知症の方とふれ合う事で理解につとめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況を報告し意見を伺いサービス提供に反映させより良いサービス提供に活かしている。	地域住民、家族、地域包括支援センターを一含む行政関係者、町議会議員の7名を委員に委嘱し、奇数月の第三週の火曜又は木曜と予め明示して開催している。利用者の生活状況やヒヤリハットなどについて詳細な報告を行い、委員から提案があった「誤薬の防止」について、現在、事業所を挙げて取り組んでいる。	地域との関わりを強化していくためにも、現在委員を委嘱している地域住民に加え、自治会が存在しない中で地域の中心的役割を果たしている民生児童委員の委員就任を実現されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議・研修会参加時や電話等で情報共有し協力関係を構築している。	各種会議や窓口で行政と情報の共有等を図っている。町からは、事業所が介護を継続する上で必須となる利用者の身元引受人の選任等、家族関係が複雑に絡む困難な事例の解決に向けて、親身になった指導・助言を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回委員会を開催している。また、年3回内部研修を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。防犯上玄関は施錠している。	事業所として、昨年7月に「身体拘束排除宣言」を行い、両ユニットの玄関に事故報告の区分等とともに掲げている。既に指針を定め委員会を開催し、職員研修も定期的に行っている。利用者が事業所裏手の山に一人で入ると危険なため、家族の了解を得て玄関を施錠している。毎月の全体研修会では、スピーチロック防止を取り上げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会を持ち、虐待と思われる様な言動があった場合はその場で未然に防げるように職員同士注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参会者から伝達講習を行い資料回覧活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や問い合わせがあった時、都度説明し、理解・納得していただいている。契約時に充分説明している。また、来所時には不明な点がないか聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時、居室や事務所で意見を聴取し運営に反映させている。	家族が来訪した際に聴き取った意見・要望や利用者の会話の中から把握した希望は、職員で構成する調理、行事、防災等の五つの委員会で協議して、具体化されている。家族からは「出来ることは本人にやらせて」と、入居者からは「おやつ」等に対する声が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体研修会・ユニット会議・アフター5・随時意見・提案を聴取して反映させている。代表は常に現場に顔を出し職員に声掛けしている。	毎月の全体研修会、ユニット会議、年度末の個人面接で、職員の意見・要望を把握している。日常の介護の工夫や備品の更新、行事の在り方など、事業所運営の改善に役立っている。職員のキャリアアップの一環として、資格取得等に対する支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常日頃から状況を把握し、環境・条件の整備を行っている。管理者や主任からも意見を聞き向上心を持って働ける職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し、その職員に合った研修会に参加させてレベルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修会等に参加時等に情報交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。グループホーム協会や地元同企業主催の研修会に参加させている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が訴える要望や不安・困り事を傾聴し、意見を尊重しながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族・本人の要望・不安・困り事を傾聴し、納得される支援を提供する事で信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態や訴え、状況観察の中から、その時に必要な支援・対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は自分でやってもらい、できない所をお手伝いする事で一方的な立場におかない支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告し家族に出来る事は協力してもらい、共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人・知人の面会時には居室対応し、美容室など本人の馴染みの所を利用出来る様支援している。	事業所の外との係わりを持っている利用者が多く、友人の面会、手紙、電話の取次ぎなど、その関係の継続を支援している。また、町民文化祭に書道の作品を出展した利用者は、毎週、以前からの趣味の友人と出掛け、介護度が低い複数の利用者は、携帯電話を自己管理し居室で使用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯たたみ・食器拭き・トランプ・将棋・カルタ等を一緒に行い入居者同士が関わり合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も情報を把握して相談や支援が出来る様にしている。長期入院で退所となった方にも病院を訪問し様子を伺っている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は傾聴し、意思尊重しながら希望に沿った支援に努めている。	職員が寄り添って傾聴した、或いは家族からの情報を交えて把握した利用者の思い等は、個人記録に記載するとともに、申し送りノートを通じ共有されている。車椅子利用者もその希望に沿って、職員の見守りの下で、事業所内で自分の力で好きなように動き、行きたいところに行けるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や本人・家族・関係機関と情報共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本情報・介護記録・日々の関わりや家族からの情報を基に把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医・職員の意見や提案を踏まえ介護計画を作成している。ユニット会議で情報収集・アセスメントして現状に即した計画となる様努めている。	入居時は、予め把握した利用者の基本情報をもとに介護計画を作成し、その後は、利用者の健康状態、認知と行動の状況等の評価項目について、居室担当職員が毎月自己評価を行い、その積み上げの下で、3ヵ月毎のモニタリングを経て、6ヵ月毎に管理者が原案を作成し、ケアマネである施設長と協議して介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケア内容を介護記録に記入し、情報共有・実践し介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や意向の変化に合わせて柔軟な対応をしている。その日の身体の状況に合わせて対応を心がけている。本人の意思を尊重している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人への必要物品は基本的には家族に購入してもらい、習い事等での外出が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況変化時、体調不良時、本人や家族と相談、かかりつけ医と相談して受診する様にしている。かかりつけ医の月に数回の往診も行っており適切な医療が受けられている。	かかりつけ医は、入居時にこれまでの主治医と協議し差支えが無ければ2週に1回受診出来る事業所の協力医に変更している。町内外の特別科等の受診には、事業所の看護職員と家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化を看護師に報告し適切な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状況変化時は連絡を取り合い話がスムーズに行える様にしている。入院時は、看護・介護サマリーを作成し、情報共有している。看護師・ケアマネにより情報交換・提供により関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の意見を踏まえ、定期的に家族に状態報告・話し合いを持ち、本人・家族の意向から方針を決定し支援に取り組んでいる。	重度化に伴って医療を要する場合には隣の市の県立病院に搬送しているが、看取り搬送はない。訪問診療の協力医と事業所内看護師の体制で、昨年は3名、今年も既に2名の看取り介護を行い、看取りのために家族も居室で寝起きしている。職員は必要な研修を受講し、看取り後は、その都度、職員との話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による応急手当の指導・救命士による救命講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの消防訓練に近所の方々にも参加してもらい協力体制を築いている。又、風水害の自主訓練も実施している。	火災避難訓練は、消防署員の立ち合いで年に2回実施している。災害の発生が想定される場合には、町から予め避難準備情報発令見通しの連絡があり、施設長の判断で早期に対応している。台風15号襲来の際には、ポータブルトイレを携帯しながら、冠水する道路を通過して近隣の大槌学園に全員が避難している。東日本大震災では、川を遡上した波が海岸から離れた事業所の前まで押し寄せており、防災に対する事業所の意識は高い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの保護に努め親しみを込め方言を使い会話しながらもし失礼のない言葉使いで対応している。	人格の尊重は、運営理念の第一に掲げる事項とし、利用者のプライバシー侵害を防止するため、全体研修会で徹底している。利用者のプライバシー確保のため、職員は利用者と一緒にトイレへ誘導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がしたい事、やるか、やらないかを確認して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握し、業務優先にならない様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のお気に入りの衣類が着用出来る様本人に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食材を切ってもらったり、味見をしてもらい同テーブルで一緒に話をしながら食事を楽しみ片付けも一緒にしている。	職員の「調理委員会」が旬の食材を利用し、変化を持たせながらワンパターンにならないような献立を立てている。土地柄もあり、利用者の希望で毎日魚を提供している。買い出しは職員が毎週2回行っている。お正月のなます、お花見のちらし寿司や誕生日に出る赤飯等の希望メニューは好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・形態を入居者に合わせ提供し、水分量も不足しないよう麦茶が嫌いな方にはスポーツドリンクを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、自力又は介助で口腔ケアし口腔内を清潔にしている。義歯は毎晩洗浄剤で除菌している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方は訴え時や排泄パターンを把握してトイレ誘導し、トイレの場所がわからない方にはトイレ前まで誘導している。	一丁目で5人、二丁目で9人が自立している。利用者の仕草や排泄パターンに沿って声掛けしている。おむつ使用者もトイレを使用している。職員は利用者の行動を見守りながら、何気なく側に寄り添い、自然にトイレに行けるよう、自立に向けた支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師による腹部マッサージや水分補給・下剤等を使用し便秘予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間は目安として決めているが、本人の希望・状態に臨機応変に対応している。	週に2、3回午後入浴としている。シャンプー等の用品は事業所で用意しているが、家族が持ってきたお気に入りのものを使っている利用者もいる。15分から20分の入浴時間は、歌を唄ったり、職員と二人で話しをする又とない傾聴の時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンに合わせ、仮眠や休息・体操等適度な運動により安眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師からの説明や薬の説明書で内容を把握し症状の変化の確認や支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の挨拶の声掛け歌レクでリードする方等役割があり、又、買い物・美容室への送迎支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	9名中6名の方が車イス使用となり外出を希望する方が居なくなって来ている中で機会は少ないが、外食・買い物ドライブ等の外出行事を行っている。	外気浴は、プランターへの水遣りと、季節が良ければその日のお天気と体調をみての10分程度の散歩としている。春のお花見は釜石の小川体育館に、秋の紅葉狩りは山田町に、何組かに分かれて出掛けている。インフルエンザの心配もあり、これから冬に向かって外出を控えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理1人のみ。あとは事務で管理している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したい等の訴えには電話出来る様支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは入居者と職員と一緒に作成した飾り物を掲示している。トイレの汚れは都度掃除して快適に使用出来る様にしている。	二つのユニットは、仕切りを外した一体的な広いホールとなっており、それぞれの台所が向かい合って配置されている。壁には、敬老会の写真やちぎり絵が飾られ、リース飾りやモールが季節感を醸し出す役割を果たすとしている。ユニット毎に大きなテーブルが置かれ、利用者はお気に入りの椅子に座り、事実上の指定席となっている。エアコンと毎週清掃している加湿器で快適な環境を保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった自席にはこだわらず、好きな所で過ごしていただいている。1人になりたい方は居室で過ごしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着がある物や使い慣れた物を持って来てもらい好きな所に置いて居心地良く過ごせる様支援している。	居室は、エアコン、洗面台、ベッド、収納棚が備えられ、お気に入りの写真を飾り、仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。多くの利用者はテレビを持ち込み、居室で楽しんでいる。窓に架けられたレースのカーテンが、一層落ち着いた親しみのある居室としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室に手すりを設置し各場所に看板を見やすい様に掲示し、安全に自立した生活が送れる様にしている。			